



TITLE:

銀行秘密の維持と所得税

AUTHOR(S):

神戸, 正雄

CITATION:

神戸, 正雄. 銀行秘密の維持と所得税. 経済論叢 1930, 31(6): 767-788

ISSUE DATE:

1930-12-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/129967>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號 六 第

卷一十三第

行 發 日 一 月 二 十 年 五 和 昭

論 叢

銀行秘密の維持と所得稅

本居宣長の經濟思想

利子に於ける勢力の作用

日本の家族制度と民法

說 苑

大量に就いて

工業と商業との交渉

雜 錄

所得分配統計の研究方方法

京都市に於ける消費組合

金と物價との關係に就て

Westergard G I 著

法 令

郵便貯金利子割合ノ件中改正・米穀法第二條ノ規定ヲ權太ニ施行スルノ件・米穀法第二條ノ規定ニ依リ米及粃ノ輸入稅增加ノ件・昭和三年勅令第二十二號米穀法第二條ノ規定ニ依ル米及粃ノ輸入制限ニ關スル件中改正・無業法ヲ權太ニ施行スルノ件

附 錄

新着外國經濟雜誌主要論題

本誌第三十一卷總目錄

神戶 正雄

本庄榮治 郎

高田 保馬

三浦 周行

蟬川 虎三

磯部 喜一

沙見 三郎

谷口 吉彦

一谷藤一 郎

財部 靜治

經濟論叢

第三十一卷 第六號 (通卷第百八十六號)

昭和五年十二月發行

論叢

銀行秘密の維持と所得稅

神戸 正雄

緒言

第一段 所得稅に於ける私人の内情保持の問題 (一)申告制の長所 (A)租稅本質上 (B)課稅技術上隨つて公平課稅上 (C)道義上 (D)政治上 (E)經濟上 (F)時處により特に適切い處による適應性 (二)其短所 (A)道義上 (B)政治上 (C)經濟上 (D)課稅技術上 (E)公平課稅上 (F)私交上 (G)特別事情の處)

第二段 所得稅に於ける銀行秘密維持問題 (一)銀行秘密開示制の長所 (A)租稅制度上 (二)所得稅の完成上 (公平課稅上) (三)他稅の完成上 (B)社會政策上 (一)貧富關係の調整上 (二)社會感情の調和上 (C)經濟上 (一)銀行及信託會社及顧客の立場から (二)法人企業の立場から (D)政治上道義上 (E)財政收入上 (二)其短所 (A)經濟上 (一)銀行信託會社及個人の信用低下 (二)銀行等利用の減少 (三)資本の海外流出 (B)道義上 (C)政治上 (D)法律上)

結論(全文の要旨)

緒言

今日、我國に於て、一方には法人配當の綜合課税を源泉課税に改めよとの要望があるが、其事は曩きに論評した通りである。そして他の一面には、之に反し法人配當の綜合課税を現在の儘維持し、進んでは、現在尙未だ源泉課税の域にある銀行預金及貸付信託をも綜合課税に引直して然るべしとの考が存する。少くとも斯かる考が成立し得て、而かも所得税の理想からいふならば、むしろ此後説の方が前の考よりも進んだものである。たゞ其の銀行預金及貸付信託の綜合課税に伴ふ缺點が著しく、現在の我が國民道義の狀況と、課税技術の程度とによりて、此等の物を箇人に綜合課税して果して能く、漏れなく摺み得るであらうか、疑ありとする(註二)。そして此が甘く行はるゝが爲めに必要な國民道義の急速の向上といふことは先づ六つかしきことだとして、差當りては課税技術上の改善を計る外ないのだが、さて此に就いては實は今日存在する銀行及信託會社の營業秘密の尊重といふ原則(註三)を改めることが肝要で、此さへ破り得るとするならば、前記の課税物件を箇人にて綜合課税することは、多少の煩累は伴ふにせよ、實現可能であり、完全に近い成果を齎らし得と思はれる。そして此秘密を維持せざるの方法は既に外國に其例のあることでもあつて(註三) 絶対に採るべからずといふものではない。即ち此銀行及信託の秘密の維持

如何といふことが、所得税の理想實現如何の前提となる重要事であるから、私は茲に此が當否得失を研究して見るのも無意味でないと思ひて、敢て之を試みる。但し之を説くの前に其姉妹問題たる所得申告制の可否得失をも説かうと思ふ。此は今ではいふを待たぬほど正當化されてゐるけれども、尙ほ之にさへ異論をいへばいひ得るのであつて、今日はまだ銀行信託の秘密維持打破を以て異端視する考方が強いけれども、之を正當とするの考にも可なりの論據があり、無下に反對すべきものではないのであるといふ事を明かにするには、申告制の論難が好箇の參考となり得る。尙ほ本文表題を銀行秘密としたが、其は之が打破の主たる反對が銀行に存するので、之を以て代表させたのであり實際には推して信託にも及ぶべきものである。

(註一) 資本利子が課税上、通脱易、捕捉難なものだといふことは一般に認むる所であり、其が源泉課税の行はれ得るときに、漸く捕捉し易きことの出来るものに屬する。例之、シェフレーは、利子所得が最も多く隱匿されるものだといひ、デーツェルは、資本財産からしての所得の追跡については、税務官廳は、頗る苦しんで暗中模索を爲すといふて居る。¹⁾

(註二) 此は我國にては、主として銀行に關するが、信託につきても一部(詳しくいふと、貸付信託であつて受益者が個人たるもの)には此が行はるゝ(所得税施行規則二十二條の二)。

(註三) 此が米獨に行はるゝ。獨逸にては、ストルツツ其他に依ると、租税について税務官廳に對して銀行秘密といふことは存しない。銀行の顧客目録を提出するの義務だけは一九二三年法に依りて廢止されたけれども、其の一般的なる報告義務は尙存續し、帳簿及經營検査手續に於て、顧客の財産及所得關係を示す帳簿を提示する義務が銀行に存する。²⁾それから米國にては年額一千弗以上の預金利子を受領する者を記録して政府に報告する義務が銀行にある。³⁾

- 1) Schäffle, Steuerpolitik. S. 145. Dietzel, Englische und preussische Steuerverwaltung. S. 41.
- 2) Strutz, Handbuch des Reichssteuerechts. 3. Aufl. s. 87. Mirbt, Grundriss des deutschen und preussischen Steuerrechts. s. 316. Veröffentlichungen der F. List-Gesellschaft. Bd. IV. Kapitalbildung und Steuersystem. II Teil. S. 425.
- 3) Holmes, Federal income tax. 6 ed. p. 1416.-1417.

佛國にては、相續税について、稅務廳に銀行秘密を示す原則が行はれる。即ち此國にて一九〇一年法律によりて、銀行預金に於ける相續税の支拂を追跡することになり、銀行及類似の機關に向つて此の金額の報告を爲す義務を負はせ、之を怠るものに制裁を附した。處が此法律は、其後、人が共同勘定を設定して逃路を作ることになつたので、一九〇三年の法律によりて、銀行は、各個の勘定(其は一個人のか共同のか)の開始毎に、之を政府に報告する義務を負ふことになり各人の死亡の場合に其勘定のバランスの報告をも爲すべきものとし、之を怠り又は詐るものに對し重き制裁を附した。⁴⁾其れで此が間接に所得税にも利用され得る譯ではある。

第一段 所得税に於ける私人の内情保持問題

所得税は人の一般に知る如く、人民の申告の上に立つ。單なる外部よりの推定、乃至は測定に依るのではなく、人民の經濟の内情に關する、彼自身の少くとも政府に對しての打明に基くものであり、其に附帶しては之を補充する爲めに、他人申告をも利用し、政府自らの調査にも基いて、前記、本人の申告を修訂して課税標準を決定することになるもので、つまり所得税にありては、各人の經濟の内狀を私的の秘密として保持せず、或度まで之を破るといふことになるものである。此事は現代所得税では避くべからざることゝ見られ、之なくして所得税を考へることは出來ず、所得税なくしく現代租税を想像することの出事ぬものさへ見られて居るのであるが、併し吟味して見ると其に重要な長所もあるけれども、又可なり多くの短所もあつて、單純に之を肯定

4) Tranter, Evasion in taxation. p. 144.

し去るといふことの出来ぬものでもあるのである。今茲に此申告制度の長短を考察して見る。

(一) 申告制の長所

(A) 租税本質上——租税は本來、統治團員よりしては道義上の自覺によりて給付さるべきものである⁵⁾。其處に之が理想的狀態を見ることが出来るものであるとすると、政府のみよりしての一方的決定、乃至は單なる外形上よりの推定測知によりて課徴するやうな税よりは、其も技術上已むを得ぬこともあるのではあるけれども、出来れば義務者本人の自身の十分なる、意思表示に基いて、明確なる理解の下に課税したきものであり、そして此所得税に於ける申告は恰も此要件に適合するものである(註四)。

(註四) スタンプは、今日の見解にては、納税者が負擔の或ものを感ずることが良きことであつて、納税は、正直にして名譽を重んずる合理的の人民に於ける其作用によりて、定められなくてはならぬといふて居る⁶⁾。

(B) 課税技術上随つて公平課税上——所得なるもの、性質が之を決定するについて、到底、政府自身の力のみにては及びもつかず、何としても本人及關係ある他人の申告をも待たなくてはならぬものである。固より所得の中にも有形且つ公示的で、容易に政府に於て攔み得るものもあるけれども、可なりによく、錯綜したる人々の關係に基き、多少無形的であつて、私的內狀に屬し、其も不動固定だと良いが、頗る多く變轉し流動しつゝあつて、政府、本人か知人かの手を借らな

5) 拙著財政學大系 245.

6) Stamp, Principles of taxation. p. 106.

くては掴み難い。其れで多少の虚偽が伴ふのは避けられぬにもせよ、此等の物についての申告のあるのは、之なきにまして所得を掴むに有效である(註五)。随つては一層公平に課税するのにも貢献する。

(註五) エーベルとは、所得税が主として、納税義務者の自己申告に依らなくてはならぬといふことは、今日では最早や可なり争ふべからざることだと爲し、アリクスは、直接認定法は、例外なしに、凡べての所得の分科を掴むことを許すといふて居る。此に直接認定法といふは實は、外形標準課税法に對立し、隨つて申告に依らず政府の認定によりて課税するのをも含むが申告に基きて課するのを含み、今日にては後者が其主となるから、直接認定法の利益といへば、今日にては申告制の利益としても良い。

(C)道義上——此申告あるに依りて人民の道義心を養成することが出来る。人は此申告に於て或は虚偽に誘惑さるゝことがあるけれども、又、之を正直にしなくては濟まぬ氣持にもなつて、特に永き時の間此に慣れることに依りては一層段々とも此氣持にならしめて、自らの間に、人々の道義心を進めるといふことにもなる。(註六)。

(註六) フイスチングは、所得税の實行は、其手續の正當なる成形にては、國民義務の正當なる認識、及國民自覺の向上に貢献し、且つ個人を豫算、良心に合したる、記載によりて其家計の經濟的制定を爲すことに刺戟すと爲し、ベラフェルデスは、所得税は、他税ではむしろ蔽はるゝ所の個人の租税義務を最明に表示に齎らし、此が最切に、國民に向つて、彼等が國家の爲めに、犠牲を齎らす義務あることを教めることが出来ると爲す。

(D)政治上——にも、此申告制が政府と人民との關係を圓滿ならしむることに貢献する。元來、近

7) Eheberg, Fw. 18 & 19 Aufl. S. 300. Allix, Traité élémentaire de science des finances. 5 éd. p. 468.
8) Fuisting, Grundzüge der Steuerlehre. S. 211. Bela Földes, Fw. 2 Aufl. S. 365.

代人は民衆的であり政府官權の一方的高壓的の決定には反抗するの氣分を持つ。政府の一方的の認定によりて課税しては苦情、反感が有つて、政治が甘く行はれない。此納税に關する各人の申告に待つときに、彼等の理解同情を得ることが出來、彼等の間に、政治を我物也とするの感を普及し政治を圓滿に行はれしむることにもなる。(註七)。

(註七) レオンゼーは、民衆主義の眞の友達は、專横からして解放されやうとし且つ之に成功するものだとして、アリクスも、民衆的思想の壓迫の下に、租税が人的に復歸する傾きありといふ。アーミタジスミスは、更らに、民衆的傾向が、英國所得税の税體系中の地位を強めるといふ。

(E) 經濟上——は此申告が人民に簿記の慣習を養ひ、随つて其經濟を合理化することに導くの效がある。人が正直に所得を申告するが爲めには、正しく精しき簿記を有たなければならぬ。課税上、申告が要求さるゝときに、人は之に應ずる爲めに、次第に簿記を怠らぬことになつて、此がやがて、各人の經濟生活を規則正しく秩序立つたものたらしめることになる。(註八)。

(註八) 前註六、フイスチング參照。尙ほ、エーベルヒも、恰かも、此階級(小農商工業者)にとりては、申告強制が大なる利益を有つ。其は此が規則正しき簿記を初めることの動機となり得ることにてだといふ。¹⁰⁾

(F) 時及處により特に適切なるものたり得ること。

(い) 處に依る適應性——即ち此申告制が特に或事情の國に適切だといふことがある。一體に租税制度は國情によりて異なるべきものだが(註九)、申告制も亦た然りであり、恰かも例之、英國のやう

9) Léon Say, Les solutions démocratiques de la question des impôts. p. 201. Allix, l. c. p. 470. Armitage Smith, Principles and methods of taxation. 10 ed. p. 64.
10) Eheberg, a. a. O. S. 226.

に、國民の間に、大體、國民自覺が強く、而かも箇人としての名譽心も強く、尙其上にも、經濟上の計算に慣れて居る處には、所得申告が當然ともされ、圓滿にも行はれることが出来るのだ。

(註一〇)。つまり申告制の甘く行はるゝのには色々の條件が入る。第一、人民に國家心愛國心が相當に強くなけてはいけなないが、其れだけでもいかなない。矢張り其上にも各箇人に名譽心もが強く即ち國家の爲めに併し同時に自分の名譽の爲めにも正直に申告しやうといふ氣持とならなくては不十分である。其の自己の名譽心といふても、多少其處に商人的の打算が潜む。併し又、單なる經濟上の打算のみではなく其上にも自負心、自尊心と結付いた無形の満足をも伴はなくてはならぬ。其も一時的ではなく、永く自分の一生涯を通じての、更らには己の子孫のことまでも考へての打算から出て、且つ無形の多少誇りともいふべきものを伴つた名譽心が強いときに、正直になり得る。其上にも經濟上の條件が整ふと一層良い。人が經濟上、所得計算に慣れて居ること、簿記が一般普通事となつて居ることが肝要である。如何に正直に申告しやうとしても、所得計算が出来悪い處には正直なる申告は行はれない。或は獨逸のやうに前記條件の或ものを缺くけれども官僚的で、萬事、役人の裁斷に信賴する民性の存する處にても、申告が相當に行はれる。本當に人々が心から正直に申告しなくてはならぬとまで感じて之をするのではないが、併し不正の申告をすれば、官權が之を訂正する。吟味する。制裁を加へる。其には反抗せず、服従しなくてはな

らぬとし、やつぱり、さうされないだけに初めから進んで申告して置かうといふことにもなり得る(註一一)。併し此獨逸の如き國情は何としても申告の正直については英國の國情に劣るといふを免れない。

(註九) アーミタージュミスは、之についていふて居る曰く、一國に適當な制度が他の國の事情に全く不適當といふことがあり得る。——經濟上政治上適當なものが考へられなくてはならぬ。そして一國民の歴史と感情とが之が決定に於ける要素だと。¹¹⁾

(註一〇) チスカは、自己評定(申告)は、前提として、高く發達したる經濟生活と、之と關聯して、租稅義務者の教化の高度とを有つと爲し、ベラフェルデスも、所得稅は凡て唯だ、國民經濟的發達の高き度及び國民的義務自覺の強き發展に於てのみ、有利な結果を示し得ると爲し、モルも、所得稅は高き文化段階と、高き經濟上の發達とに於てのみ與へられるやうな或前提を有つ、其は(1)相對的に高き租稅道義(2)人民の相對的に高き教育階段、即ち規則立ちたる簿記、租稅の意義並に目的についての人民の高き判斷、並に客觀的の租稅義務に關する大いに複雑なる法律上の規定の智識だと爲し、ロンベは、英國にてはかゝる制度が行はれ得る。何せとなれば、此處には此が吟味的方法とならずして濟むから。其の譯は、英國民は其商人的生活の爲めに、其當時の所得事情を精密に計算することに慣れて居り、且つ名譽心に富むから(凡ての商業の基本も亦信用にある)といふて居る。¹²⁾

(註一一) ロンベは、普魯西は、官僚國であつて、此にては國民が古くより、全く役人の意思に服従し、其の私的事情の詮索にも服従するやうに慣れて居ると爲し、スタンブも、警察制度が普魯西の租稅の成功の大部を働いて居ると見て居る。¹³⁾

(ろ)時に依る適應性——同一の處を取つて見ても、嘗ては此申告制に適當しなかつた、此が不満足にしか行はれなかつた處にても時勢と共に此が行はるゝこと久しきに及べば、此に慣れて來る

11) Armitage Smith, l. c. p. 41.

12) Tyszk, Fw. 2 Aufl. s. 176. Bela Földes, a. a. O., S. 371. Moll, Lehrbuch des Fw. S. 452. Rompe, Die ideengeschichtliche Entwicklung des Einkommenssteuerproblems in Frankreich. S. 2.

13) Rompe, ebenda. Stamp, l. c. p. 102.

といふこともあり、特に其國の經濟及道義狀態も次第に進展して來るし、其にて民衆的精神が進むときに、此申告を全く當然の事だとする考が、一層普及して來ることにもなつて、益々之を圓滿に行はれしむることになる(註一二)。

(註一二) アーミタージュスミスは、當時行はるゝ事情、並に思想——經濟上、社會上、政治上——が一國の採用する租稅形式を大いに決定することにならなくてはならぬといふ¹⁴⁾。

(一) 其短所

(A) 道義上——其處で翻て申告制の短所を考へて見ると、此が一方に於て、人民の道義を進めるけれども、同時に他方、人をして打算上、自己又は自己に關係ある他人の納稅額を、出來るだけ少からしめやうとして、不道義に誘はれるといふこともある。斯くて夫の制度が全體上、國民道義を良くするか悪くするかは判斷に苦しむ所ではあるが、むしろ不良とする方が強くはなからうか(註一三)。特に税の輕きときには左程でもなからうが、此が重くなるに隨ひては一層之を不良としやうし(註一四)、景氣の惡くなつたときにも、此が不良とならう。それから政治上の爭の烈しい場合などにも、反政府黨の人々は申告に際し、自ら虚偽に促さるゝ傾もあつて(註一五)、其に對し政府黨の側の者は、反政府黨の者を壓迫するのに、恰かも此不正申告に對して烈しく追求し(註一六)さうなると今度は反政府黨の者が愈々益々逃げやうと計るといふことにもなつて、不道義

14) Armitage Smith, l. c. p. 32.

が助成さるゝやうな結果にもなる。

(註一三) スタンプは、グラッドストーンの詞を引用して、所得税が國民を虚言者とすることを指摘し、アリクスも直接認定法が國中に虚偽を進め、税をして正直者への罰金とならしめるといひ、モルは、所得税の懸念は租税道義の破壊にあると爲し、ロンベは、一方に虚偽、他方に國庫主義が所得税の二の不快なる衛兵だと爲す。ベラフェルデスは、租税主體は常に虚偽申告を爲す誘惑に曝されると爲し、他の處にては、個人の利己心が屢々義務自覺に打克つと爲す。尙、拙文、租税に於ける強制と任意、註一九。所得税の弱點註五、二九參照。¹⁵⁾

(註一四) ベラフェルデスは、所得税の成績如何は主として、租税道義の度にかゝり、此租税道義を進める手段は低き税率である。租税道義は高税率の行はるゝ處に最不良であると爲す。¹⁶⁾

(註一五) モルは、租税義務者が政治上の事情に不満であるときに、そして彼が現行租税立法を不公正と感じ、有産階級の税負擔を高きに過るものと感ずるときには、彼は事情によりては國家を詐つたことに特別の満足さへも認めることゝならうといふ。¹⁷⁾

(註一六) ロツツは、自己申告制の爲めに、政治上の支配階級が、例之、或個人には特別の恩典を與へ、政敵には特に過重負擔を負はせることになると爲し、ベラフェルデスも、烈しき政黨生活の國では、所得が公正且つ比例的に課税されるのを期することは出来ぬ。何ぜとなれば、政黨は常に其所屬者には、寛大であつて、反對黨には追求的且つ嚴酷だからと爲す。¹⁸⁾

(B) 政治上——此申告制あるが爲めに、人々の自由精神を傷け、政争に濫用されるといふ恐がある。今日の私有財産私營利制下には、各人は其私營利行動については、他から拘束を受けず、自ら自主的に行動し得る。其が人の欲する處で、人間性に合する、斯くして人格も、簡性も完うせ

15) Stamp, l. c. p. 103. Allix, l. c. p. 470. Moll, a. a. O. S. 454. Rompe, a. a. O. S. 4. Bela Földes, a. a. O. S. 366. 440. 租税研究一卷 72 三卷 198. 212.
16) Bela Földes, a. a. O. S. 442-443.
17) Moll, a. a. O. S. 454.
18) Lotz, Fw. s. 272. Bela. Földes, a. a. O. S. 367.

られる。此は又嘗ての専制政治に反抗して、貴き犠牲を拂つて克ち得た尊き實である。今、申告制を租税に定めるときに、各人の内狀が政府に明かになつて、爲めに各人が自由の行動に於て自らに制限を受けることになる。勿論、此申告によりて、明かになつた事實は、之を外部に漏らしではならぬとせられ、之を漏らすものに制裁まで附けることにはなるが、其れでも何處どなしに漏れるのを免れない。加之、此場合、當事者と反對黨の者が政府當局、委員會などにあるときには、之を以て其當事者の利益を傷けることに悪用するといふ心配もある(註一七)。さうなると、其利益を傷けられたる人民の間には、政府又は國家への反感を増すことにもなる(註一八)。申告が政争に濫用されるの弊に苦しまなければならぬ。但し其は國情にも依り、場合によつては斯かる心配の殆んど之なきを得るといふこともあるけれども、併し又政争の烈しき處には此心配は大にある。

(註一七) 前出註一六參照。

(註一八) 前註一五參照。尙、拙文、所得税の弱點註三一參照。¹⁹⁾

(C) 經濟上——申告制が營業競争に濫用せられて營業者を傷けるといふことがある。上にいふやうにして各人の内狀が漏れるときに、其營業者の有利狀況にせよ不利狀況にせよ、其が彼を傷ける。有利なる事情であれば、競争者を多からしめることになり、其はまだ忍ぶとしても、不利事

情なれば彼の信用を落とす。信用を第一とする彼れ營業者にとりては、其が時として致命的でもあり得る。何れにしても營業秘密の不維持といふことは、彼れ當業者にとりては不利とする所である。(註一九)。

(註一九) チスカは、商工業者は常に其所得の高さを精密に申告することを嫌ふ傾きを有つものだ。彼等は之によりて其營業秘密の漏れることを恐るゝものであり、特に恐らくは、其營業上の友人の居る租税委員會に、其自らの偶々受けた損失を報告することを苦痛とする。之によりて其信用を失墜することを恐るゝと爲し、ロツツは、申告税にては納税者の不快感を頗る無益に高め、隨つて租税負擔に於ける便宜に反すといふが此も前記のものを指して居る。アリクスは直接認定法(申告に依るものを含む)では、各人の財産秘密が國庫に打開けらるゝことを餘儀なからしめ、常に有害にして、往々にしては偏頗なる秘密公開とならしめ、商工業者の場合には、其地位を競争者に公開することゝならしめると爲し、ロンペはマラーズの言を引いて、此制度下に、納税義務者が、自ら不正當に評定されたとする場合には、彼は審査を要求する權を有つ。其處で彼の私用の帳簿又は商業帳簿、其秘密書類をも委員會に提出しなくてはならぬことになる。然るに此委員會は彼の政敵により營業競争者により又は人的の敵手により占めらるゝことがある。かくて此方法により彼の財産及其家内の秘密が不快にも公開されることになり、商人として並に家長としての信用及地位を失し、人の好意又は憎惡に任かきなくてはならぬことになるといふて居る。²⁰⁾

(D) 課税技術上——には爲めに、多少は官民の紛争を生じ、申告の收蒐、整理に煩累を生じ、徵稅費も相當に多くかゝるといふことがある(註二〇)。けれども此は大して重くない。反面からいふと、此が外形標準に依つたり、源泉課税に依りたるに比しては面倒多費であるとしても、單に官廳

20) Tyszka, a. a. O. S. 177. Lotz, a. a. O. S. 234. Allix, l. c. p. 470. Rompe, a. a. O. S. 3.

の調査に基く認定によりたるに比しては紛争少く、煩勞も費用も少くして済むからである(註二一)

(註二〇) モルは、所得税の普通の方法(源泉にて課せず、申告に基き綜合課税するもの)は大きな費用を意味すといふ。²¹⁾

(註二一) ベラフエルデスが、所得税は國家の、税源の方への厄介且つ多費なる吟味を爲すのを不要とする。何ぜとなれば國民自らが税源を明かにするの義務を負ふからといふのは、此點を指すのである。²²⁾

(E)公平課税上——齊しく申告といふても各人の良心の度合(註二二)と、政争の烈度(註二三)との如何により、更に當該所得計算の難易によりても(註二四)、申告の正確度が異り、其爲めに不公平なる課税を生じ得る。

(註二二) ベラフエルデスは、租税申告の異りたる度の良心が大なる不公平を導くと爲す。²³⁾つまり正直な者は軽く課せらるゝ結果となるといふのだ。

(註二三) 前註一五、一六、一八参照。

(註二四) ベラフエルデスは、申告の多様に於て、所得の計算が必ずしも常に容易なものでないといふて居る。²⁴⁾

(F)私交通上——特に他人申告の場合には、人が正直に申告する爲めに政府にては調査上有利となるが、併し所得者本人からして恨まれることになり、其感情を害し私交を不良とし、延いて營業關係をも不利とするといふことがある。已むを得ぬとはいひ乍ら、缺點といへば矢張り一の缺點ではある。

(G)特別事情の處——例之、自由精神の尊重せらるゝ處(註二五)、又は簿記のあまり行渡らざる處

21) Moll, a. a. O. S. 456.
22) Bela Földes, a. a. O. s. 365.
23) Bela Földes, a. a. O. S. 366.
24) Bela Földes, a. a. O. S. 440.

(註二六)、政争の烈しき處秘密嚴守道義の行はれ難き處などには申告制の缺點が特に著しく現はれるといふことを注意しなければならぬ。

(註二五) ロンベは、佛國にては、人が、自由に慣れたる國民が、かゝる吟味的の手續に曝されてはならぬと信じたといふて居るが、アリクスは、直接認定法は、佛國納稅義務者の性質と合致せずといふて居る²⁵⁾。

(註二六) ベラフェルデスは、申告には精密なる簿記が缺くべからざる前提なのに、其は今日にては、殆んど唯だ商人及大經營のみに現はるといふ。²⁶⁾

第二段 所得稅に於ける銀行秘密維持問題

上にいふ如く、所得稅に於ける自己及他人申告、隨つて私的內狀開示の制度には一長一短があり、時の國情によりても、適否の差異を生ずるので、一概に可なりともいひ難きものがあり、隨つて現在にては、此を不利とする點が著しいこともあるけれども、さて併し所得稅にては其にも拘らず之を缺くことを得ぬものであり、そして其は時勢の進みによりて次第に人々に慣れるやうにもなり、却つて時代精神に適當することにもなる。其の一延長とも見るべき銀行及信託秘密の開示も亦齊しく同一の事情にあり又同一の運命を有つものかと思はれる(註二七)。茲に之が長短を指示して其事を明にしやうと思ふ。

(註二七) エーベルヒは、最近時には、銀行もが報告提出に引かると爲し、チユッケーは、租稅遁脫に對する戦争には關稅

25) Rompe, a. a. O. S. 2. Allix. l. c. p. 470.

26) Bela Földes, a. a. O. S. 440.

官廳及租稅官廳の外、銀行もが要求せられたと爲し、チーツェルは、銀行、貯蓄銀行、産業組合、保險會社等にて、其顧客の關係、勘定、證券保管につき吟味する權利を稅務官吏に與ふる計畫が一層強き反對を受けた。疑ひもなく此の如き報告強制は心配を有つ。併し所得税の徵收が重くなるに隨ふては、此の如き強制が益々多く避くべからざることになるといふ。²⁷⁾

(一) 銀行秘密開示制の長所

(A) 租稅制度上

(い) 所得税の完成上(公平課稅上)——銀行秘密開示制即ち銀行信託會社が其預金者金錢信託者の一々の名前並に預高を申告するの制度又は稅務官に於て之を帳簿上調べ得るの制度は、此種の預金貸付信託の利子乃至利益を綜合課稅とするのには缺くべからざるものであり、即ち我所得稅をして現在に於ける變體的状态から脱して、其人的綜合的の正常狀態を完成せしめる所以であり、之によりて一層負擔の公平にも適ひ得しめる。

(ろ) 他稅の完成上——此制度の發達は獨り所得税の完成に資するのみならず、相續稅にも一層有利となり、財産稅の成立にも好都合となる。

(B) 社會政策上——

(い) 貧富關係の調整上——今日のやうに此制度が行はれずして、夫の銀行預金貸付信託が源泉課稅の儘となるときに、そして此等のものに比例課稅の行はるときに、富者には寛に失し貧者に

27) Eheberg, a. a. O. S. 227. Zschucke, Steuerflucht, Kapitalflucht, Depotzwang. S. 5. Dietzel, a. a. O. S. 2.

は嚴に失するので、其が反社會的として非難されなければならぬ。然るに此に、銀行秘密開示制が行はれて此等のものが綜合累進課税中に織込まれるときに、貧者富者の關係は實質的にも一層良く調整せられるであらう。

(ろ) 社會感情の調和上——加之、今日のやうに銀行信託會社が其營業秘密の名の下に、内容開示に反對し、そして立法者が之を尊重するときに、只さへ今日の政治は金融資本家本位だとして非難されて居るのに、此非難を一層大ならしめる。其れで之を緩和する上からしても銀行秘密の開示を行ふて前記のもの、綜合課税に導くことが望ましい(註二八)。

(註二八) ポピツは、(現在獨逸に於ける銀行秘密開示を廢止して)銀行秘密を再定することによりて、全き人民の間に資本家の特權といふ感情が増進するであらうと憂慮して居る。²⁸⁾

(c) 經濟上——

(い) 銀行信託會社及顧客の立場から——見て、夫の秘密を開示するときに、彼等の不利のやうにも思はるゝが、當業者としては、同業者の一部だけに此が行はれては不利に違ひないけれども、同業者の皆の者に行はるゝならば特別の不利といふものではなく、多少此秘密が知られて不利といふことはあり得ても、其は其あるが故に、其業務を一層改善することに意を用ゐしむるといふ利益をも有つ。顧客にとりても不利と見らるゝが、此とても、現に第三種にかゝる諸の所得が開

示さるゝに於て、獨り銀行預金貸付信託にのみ之を拒む特別の理由はない。其を不利としても他のものとの共通なる不利として忍ばなくてはならぬ。此が多少外に漏れて或顧客にとりて不信を招くといふことがあるとしても、又其により却つて其信用を増すといふこともあり、此漏れる恐あるが爲めに、彼等が常に一層其信用を維持すべく努めるといふ利益もある。特に銀行會社の立場からして、あまりに其都合のみから勝手の主張を立て通はして居るときに、此の如き營業の國家管理の時期を速めることになりはせぬか。此秘密開示位の不利はむしろ適當の時に讓るのが賢明ではないか。否か。

(ろ) 法人企業の立場から——右銀行秘密開示制の發達は、株式投資を助長する副作用を有つ。今日の制下に大資本家にして課税上、株式投資を不利として、公社債銀行預金貸付信託を選ぶものが多いけれども、少くとも銀行預金貸付信託が右秘密開示制の發達の爲めに、綜合課税の下に立つことになれば、可なり多く、此迄銀行預金貸付信託に向つて居た資金を株式投下に轉せしめて、法人企業の發達を助成することが出来る。

(D) 政治上道義上——銀行秘密開示といふことは當業者關係者としても、決して苦情をいふべきものではなく、租税、對國家義務を果たす上に、凡べての人民の齊しく敢てすべきことで、一部の者が之を拒むのが相濟まずとすべく、預金者にとりて他人たる銀行等から之を開示されたとし

ても其を怨むべき筋合のものではなく、即ち此開示によりて或度まで、民衆的精神に合致し、又國民としての義務觀を却つて助成することにもなり得る(註二九)。

(註二九) 他人申告によりて、猜忌、憤怒、不和、怨恨、敵視を生じ、道義上不良の影響を有つやうだが、必ずしも斯くならず、人が之を善解することになれば、却つて國家に對する義務觀を進めることにもなる²⁹⁾。

(E) 財政收入上——の點は實は不明といふのが確かである。此開示制隨つて前記の物件の綜合課税下に、一方には源泉課税時代よりも、遁脱(特に外國へ)を多くし、免稅點以下となるものを生ずることによりて失ふものがあるけれども、他方に、大所得者の從來、比例平均率課税から、累進に依る高率課税に變るものがあり、當該預金ばかりでなく、彼に屬する其以外の所得の一層累進率の高いのを適用さるゝことにもなつて、差引して財政收入上に有利となるかも知れない。

(二) 其短所

(A) 經濟上

(い) 銀行信託會社及箇人の信用低下——此銀行秘密開示制が、銀行信託會社の信用を薄くして其存立を危くするといふこともあり得るし、顧客としても爲めに其信用を落すことゝもなり得る。特に稅務官吏、租稅委員會の人々の濫用するときに此弊が著しい。併し全體上、大した弊を生ずることもあるまいと思ふが、事情によりては制よりも弊が大いになるかも知れない。

(ろ) 銀行等利用の減少——顧客の立場として銀行信託會社に預ける爲めに其經濟狀態の稅務關係者に知らるゝを嫌ふものが少からずあつて(註三〇)、其爲め銀行預金貸付信託の減少となり、延いては産業の爲めの資金を減ずるといふこともあり得る(註三一)。尤も一部、直接に株式投資に向ふことによりて之を補ふといふことはあらう。

(註三〇) ベルンスタインに依ると、其爲め、租稅官廳が、銀行の租稅事項の吟味に於て、隨つて其定期的帳簿及經營検査に於て、顧客の租稅事情を吟味する機會を得、且つ從來知られなかつた租稅事實の發見の機會を得ることを、一般の人々が心配するといふことがある。³⁰⁾

(註三一) 一九二二年、帝國銀行理事局から大藏省に提出されたる意見書に依ると、銀行秘密の侵害が一方に大きな額にて現金の貯藏に導き他方に人民の貯蓄心に打撃を與へ、銀行取引の代りに現金取引を進め、外國への資本流出を促すことになるとあつた。ベルンスタインも、此に結び付きたる信用減少が内國金融機關より重要な人民階級の退却に現はるといふ。³¹⁾

(は) 資本の海外流出——右銀行等利用の減少といふことは貯蓄心阻喪、現金貯藏、現金取引などにも現はれるが、もつと著しく現はれる不利は、今日の時世にては、資本の海外流出といふことである(註三二)。其は銀行信託會社の不利たるのみでなく、一國産業の重大なる不利でなければならぬ。

(註三二) 前出註三一參照。尙ほ、ポピツも、銀行秘密問題について人の主として見て居る缺點は、銀行秘密の廢止によりて、若干の不信なる納稅者が内國銀行を避けることに誘はるといふことだといふて居る。³²⁾

30) Kapitalbildung und Steuersystem. II, S. 431.

31) ebenda. S. 427. 420.

32) ebenda. S. 437.

(B)道義上に——は此秘密開示制あるときに、随つて銀行預金貸付信託につき綜合累進課税の行はるゝときに、自ら現制下よりも虚偽申告の工夫を多からしめ、随つては一般の道義を紊るといふことを免れない。そして斯かる遁脱行爲は、政府の不法(?)に對する正當防衛的反抗といふた感知からも生じ得るのであり(註三三)、特に其が此制度を採つた初めの間に烈しからう。

(註三三) ベルンスタインは、銀行秘密の廢止が租税道義を高めるに相當せず。却つて反對に此が、正常の方法にては課税を害しないやうな納税義務者もが、國家的不法に對する正當防衛的地位にありと信ずることになるといふて居る³³⁾

(C)政治上——此が自由精神に反すること、並に此が政争に濫用さるゝ恐あることは前に一般に申告制についていふた所から推測さるゝ通りである。

(D)法律上——には一方からいふと、此が通常の租税行政に伴ふ必然現象ではなくして、法外なる沒收的租税制度に附帶した方法だとも非難され得る(註三四)。但し他方からいへば斯の如き租税の爲めに國家が營業秘密に立入ることに少しも不法性を認めずともせられる(註三五)。

(註三四) ベルンスタインは、營業秘密嚴守の義務ある第三者(銀行及其他の金融機關を含む)の租税官廳に對する報告義務は、整頓したる租税制度に於ける税務行政に歸すべき當然の救済手段には屬しない。むしろ其法律上の規定は、法外なる沒收的傾向に充ちたる財産及所得税立法(其は、其實行につき財務官廳の爲めに非常なる協力を要すと信ずる所の)の模型的隨伴現象だといふ。³⁴⁾

(註三五) ポピツは、租税法にありては國家と個人との間の權利關係に關するから、即ち公法に關するから營業秘密上の理由からしての報告義務の制限を爲さざる規定に於て、法律體系の破壊を認めるを得ぬと爲す。³⁵⁾

33) ebenda. S. 430.
34) ebenda. S. 430.
35) ebenda. S. 435.

結 論

以上要之、所得税に於ける銀行（信託會社）秘密開示といふことには、經濟上、道義上、政治上、及其他に若干の短所のあることは認めない譯に往かないけれども、之に對して、租税制度上、公平課税上、社會政策上、經濟上、政治上、道義上、財政收入上に可なり重大なる長所ありと認めらるゝからして、我國にても之を確立して所得税の完成を計つては何うかと考へらるゝ。